

第 4 回 館 山 市 議 会 定 例 会 議 録  
( 第 3 号 )



1 平成3年12月17日（火曜日）午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 25名

1 番 秋山 光章	2 番 増田 基彦
3 番 島田 保	4 番 斉藤 実
5 番 宮沢 治海	6 番 植木 馨
7 番 鈴木 順子	8 番 永井 龍平
9 番 脇田 安保	10 番 庄司二三男
11 番 山崎 雅己	12 番 岩村 勝弘
13 番 榎本 春光	14 番 小宮 利夫
15 番 山中金治郎	16 番 鈴木 勝美
17 番 鈴木 忠夫	21 番 神田 守隆
22 番 福原 勤	23 番 石井 昌治
24 番 石井 輝久	25 番 流山源次郎
26 番 辻田 実	27 番 横溝 功
28 番 飯田 義男	

1 欠席議員 3名

18 番 日下 君敏	19 番 川名 正二
20 番 生稻 隆	

1 出席説明員

市 長 庄司 厚	助 役 小幡 清之
収 入 役 渡辺 弘	市長公室長 佐藤 輝雄
総 務 部 長 二通 英雄	民 生 部 長 佐藤 澄雄
経 済 部 長 脇田 元始	建 設 部 長 伊東 衛
水 道 課 長 鈴木 信一	教 育 委 員 会 長 福原 修

1 出席事務局職員

事 務 局 長 兵藤 恭一	事 務 局 長 補 佐 土橋 康彦
書 記 鈴木 哲	書 記 鈴木 修一

1 議事日程（第3号）

平成3年12月17日午前10時開議

日程第1 行政一般通告質問

開 議 午前10時21分

◎議長（福原 勤君） 本日の出席議員数25名、これより第4回市議会定例会第3日目の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

行政一般通告質問

◎議長（福原 勤君） 日程第1、これより通告による行政一般質問を行います。

質問の方法等はきのうと同じであります。

これより発言を願います。

21番議員神田守隆君。御登壇願います。

（21番議員神田守隆君登壇）

◎21番（神田守隆君） 既に通告をいたしました5点について御質問を申し上げます。

庄司市長は市長に就任されてからちょうど1年が経過いたしました。一市民として市政を見てこられたのと、また市行政のトップとして行政を見てこられたこの1年と、また違った感想もおありのことと存じます。市長がその所信として掲げた市民の感覚を大事にしながら行政を進めていくことは大変に大事なことで存じます。そうした点を踏まえまして、どうぞ率直、簡明なる御答弁をお願いしたいと思います。

さて、第1点はリゾート法は廃止すべきとの世論が広がっている中で市長の所見はどうかという点についてであります。1年前の市長選挙に際して市長は、中央企業主導のリゾート開発プランを地元住民の目できちんと見直す必要があります。私たちにとってプラスになるかどうかを検討し、もしそう

でない部分があったらどんどん要望を出すべきですとリゾート開発計画の見直しを公約をされました。当時はまだいわゆる開発熱の冷めやらぬ中で、リゾート開発計画の見直しという主張は大変思い切った主張でありました。私はこの公約が単なる選挙向けに終わるのかどうか注目をしておったところでもあります。

当選後初の昨年12月市議会で市長は、自然環境との調和と地元経済への波及効果などの点から、民間リゾート開発計画についてさらに検討を加え、推進するとしていました。しかし、3月の市議会ではさらに、現在の計画は複合開発であり、雇用の場や地域にもたらす経済効果が大きいと考えております。自然環境との調和に留意し、適正に誘導してまいりますと、経済効果が大変大きいと現在の計画を追認するとともに、その見直しに対しては、市単独での見直しは不可能と見直しの公約を放棄いたしました。

果たして本当にこのリゾート計画は地域経済への波及効果は大きいのでしょうか。先ほど議員控室でお配りした資料の中にもあるわけですが、リゾート開発は地域振興につながらないとの日本開発銀行などの報告がされています。この報告では、雇用や税収増、地場製品の消費などの波及効果はほとんどないとしています。むしろリゾート開発を進めていたが、企業が採算が合わないで撤退してしまい、地方自治体には大変な経済的負担と混乱をもたらしたという極端な例も全国各地で出てまいりました。

そもそもこのリゾート開発の前提になっているリゾート法は、民間活力導入の名のもとに、大企業のもうけが中心という根本的な欠陥のある法律ではないかと思うのでありますが、いかがお考えででしょうか。

次に、国土庁の調査によれば、計画承認地域30リゾートのうち、実に22リゾートが構想の変更を希望しております。宮崎県では変更の申請を現にしております。房総リゾート計画の中核である当市でも、既に三つのリゾート計画のうち、大林組、オークエンジニアーズは撤退をしております。現在の計画を固持するのではなくして、住民の立場から本当に地域の振興につながるのかどうか、また貴重な自然を守れるのかどうかなどの点から見直しを進める絶好の機会になっているのではないかと思うのであります。市のリゾート

開発計画の見直しは必要ではないかと思うが、いかがお考えででしょうか。

次に、リゾートマンション指導要綱改定の検討はいつまでかかるのかお聞かせをいただきたいと思います。6月市議会では、西岬、神戸などの自然公園地域を対象にして高さ制限をする内容で、なるべく早い時期にということ で指導要綱の改定を検討しているとのことでありましたが、その後この検討はどのようにになりましたか、御説明をいただきたいと思いますのであります。

私はリゾートマンション建設反対の住民運動にかかわってきた体験から強く感じることは、住民にとっては生活環境が著しく損なわれるという問題を含んでいるにもかかわらず、身近に建築紛争を予防するための機関がないために、問題の解決がなかなか進まないということであります。指導要綱の改定に当たっては、こうした紛争の未然の解決ということを工夫すべきではないかと思うのでありますが、いかがお考えででしょうか。

次に、大きな第2点、県立地域文化ホール誘致の現状をどのように認識しているのかをお尋ねいたします。県立地域文化ホールを館山に誘致する市民を初めとした近隣住民の運動が大きな盛り上がりを見せたことは御存じのとおりであります。そこで、その後この問題はどのように進展をしているのか、市は現在の状況をどのように認識をしておられるのか、御説明をいただきたいと思います。

次に、全国各地の文化ホールの状況を調べてみますと、いわゆる演劇にも、あるいは音楽会にもといった多目的ホールとして建設したところでは、中途半端で使い勝手が悪いために、最近では目的をはっきりした文化ホールを建設するようになってきております。私は当然のことだと思います。そこで、南房総のこの地域に今つくり出そうとする文化は何なのか、演劇ホールなのか音楽ホールなのかなどの議論を住民の中で今つくり、住民の合意をつくり上げていくことが必要だと思うのであります。これはまたどういう内容の文化行政を館山市は据えていくのかという問題でもあります。そこで、市長のお考えをお聞かせいただきたいと思いますのであります。

大きな第3点に移ります。児童クラブ事業の実施についての検討はどのよ

うに進んでいるのかお尋ねをいたします。子供が小学校に入るから勤めをやめようかどうか迷っている。小さな子を持つ働く母親はみんなこの問題で悩んでおります。何とか早く学童保育を実施してほしいとの切実な声となっているのであります。この学童保育は児童クラブ事業の名で国の補助事業とも既になりました。私は一刻も早く実施に踏み出すべきで、来年4月からの実施を目指すべきだと考えます。昨年12月の市議会、ことしの3月の市議会とで既に実施を前向きに検討するということで御答弁がありました。1年生から3年生の放課後の実態の調査を終えて、保護者の意向調査なども終えられたものと思います。市の検討はどのようになっているのかお聞かせをいただきたいと思うのであります。

大きな4点目に移りたいと思います。これまで「検討します」の答弁は新年度予算編成作業の中でどのように検討されたのか、具体的にお答えをいただきたいと思うのであります。

まず第1点はオンブズマン的制度の導入についてであります。これは市長が選挙の際に公約されたものでありますが、その後市議会での答弁では、今後市民の声を反映して明るい行政を推進するために検討してまいりたいとしておりました。明るい行政を進める、このためにどのように検討されてきたのでありましょうか。

次に第2点、安房医師会病院の整備充実についてであります。昨年12月市議会では、救急医療や高度医療について専門家の御意見をいただき検討をする。安房医師会病院の充実について協力をしていくと御答弁がありました。医療体制の整備は市民にとって大変関心の強い、また切実な願いでもあります。安房医師会病院の整備充実についてどのような検討がされたのか、またどうなさるお考えなのか、お聞かせをいただきたいと思います。

第3点目、デイ・サービス事業の実施についてであります。この事業につきましては、昨年12月市議会での御答弁では、施設長と協議中であり、広域的に実施する方向で検討中ということでありました。どのような内容で周辺町村との協議が進んだのか、実施についてはどのような段取りになっておるのか、御説明をいただきたいと思います。

第4点目、お年寄り世帯への給食事業についてであります。9月市議会での御答弁では、国もこの給食サービスの普及については調査するという情報も入っており、私どもも生活援護型かふれあい型か、どちらにするか慎重に検討していく。早期によりよい給食サービスができるようにしたいと御答弁をなさっておりました。せんだって開かれました12月の県議会でも我が党の小柴県会議員がこの問題を取り上げ、県として市町村への補助制度の実施を迫りましたが、県当局は新年度国の事業として採用されれば県としても実施すると答弁をしております。国、県の補助事業となる可能性も高まってまいりました。こうした中で、情勢を踏まえまして市の検討はどのようになっているのか御説明をいただきたいと思うのであります。

第5点目は高齢者割引制度の問題についてであります。9月市議会でも高齢者割引についてシルバーパスを発行してはどうかと提案をいたしました、市長は貴重な御意見と評価をされましたが、その実施についてはその後どのように検討されましたか。

第6点、白内障眼内レンズ手術の助成についてであります。9月市議会では、健康保険の適用問題がどうなるか見きわめてから検討するというのでございましたが、健康保険の適用になればそれで問題はありますが、そうならないとするならば市として助成措置を実施する、こういうことで検討をされておりますかいかがですか。

第7点目、年金証明手数料の無料化についてであります。この問題についても検討することでありましたが、どのように検討されたのか御説明をいただきたいと思ひます。

第8点目、小中学生の心電図検査の実施時期を早めることについてであります。9月市議会でも、この問題については財団法人千葉県医療センターに要望していくとのことでありましたが、私は中学1年の2月ごろに検査するという現状ならば、むしろ小学校6年生の2月にやったらどうかということも含めて提案をし、検討を求めましたが、どう検討されましたか、御説明をいただきたいと思ひます。

大きな第5点目に移ります。民間団体による学校を通じての通学路の安全



対策調査についてお尋ねをいたします。通学路の安全対策につきましては、私もまた、多くの議員の皆さん方も関心の強い問題ではないかと思います。これまでこの市議会の中でもたびたびこの問題が取り上げられてまいったことからもうかがえます。

過日学校から学校通学路の点検整備に関するアンケート調査の用紙が寄せられました。アンケートは11項目にわたり具体的に質問が設定しており、大変によいことだと思ったのであります。ところが、このアンケートの実施主体が学校でも教育委員会でもPTAでもなく、聞いたこともないたいの知れない21世紀を担う子供を守る会なる団体になっておりました。本来こうしたアンケートは教育委員会自体が責任を持って行うものではないでしょうか。この21世紀を担う子供を守る会とはどのような団体なのでありましょうか。また、なぜ市教育委員会はこの団体による学校を通じてのアンケート調査を認められたのか、御説明をいただきたいと思うのであります。

以上5点にわたって御質問いたしました。御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの神田議員の質問に対しお答えいたします。

まず、大きな第1の小さな第1点目、総合保養地域整備法についての御質問でございますが、この法律は、国民の多様な余暇活動に対応した総合的な機能整備を民間活力を生かして促進することにより、ゆとりある国民生活を実現し、地域の振興を図ることを目的として制定されたものでございます。館山市といたしましては、海洋性リゾートタウンを総合的なまちづくりとしてとらえ、推進しているところでございます。

次に、小さな第2点目、リゾート開発計画の見直しが必要ではないかとの御質問でございますが、御指摘の館山レインボータウン計画は、海洋性リゾートタウン実現のために総合保養地域整備法に基づきまして県が策定し、国の承認を受けたものでございます。これは房総リゾート地域整備構想の1プロジェクトとして位置づけられた計画でございます。したがって、この

計画は取りやめるものではございません。

次に、小さな第3点目、リゾートマンション指導要綱改定の検討はいつまでかかるのかとの御質問でございますが、平成3年7月1日から県条例改正により、一定規模以上の建築物につきましては用途地域外でも日影規制が適用され、また建物周囲の空き地等につきましても基準が示され、施行されているところでございます。しかしながら、建築物の高さの制限につきましては規制はございません。館山市といたしましては建築物の高さの制限について検討中でございますが、規制するに当たり、検討すべき種々の問題が生じております。これらの問題について他市の状況等も調査中でございます。非常に難しい問題でございますので、慎重に検討し、できるだけ早い時期に改定を行ってまいりたいと考えております。

次に、大きな第2、県立地域文化ホール誘致の現状をどのように認識しているかとの御質問でございますが、現状認識につきましては昨日の岩村議員にお答えいたしましたとおりでございます。今後とも地域文化の振興に資するための文化ホールとするため、関係団体と連携を保ち、また地域住民の方々の文化ホールへの具体的な希望等を把握しつつ対処してまいりたいと考えております。

次に、大きな第3の児童クラブ事業の実施についての検討はどのように進んでいるのかとの御質問でございますが、児童が健やかに生まれ育つための環境づくりの一環として、放課後の児童対策は一つの課題と認識しております。現在児童クラブ事業の実施場所、方法、指導員等個々の問題について検討しております。

次に、大きな第4の小さな1点目、オンブズマン的制度の導入についての御質問でございますが、これは私が市長選の際に市民の声が反映された明るい行政をいたしたいと考えたわけでございます。おかげをもちまして私も市長として1年が経過いたしました。その間議員の皆様を初め、市の各種委員会などで市政振興につきまして貴重な御意見をいただいております。また、いろいろな機会にたくさんの市民の声を直接伺っております。このように、市政と議会と市民の意思の疎通を図りながら開かれた市政運営を行っており

ますので、オンブズマン的制度の導入は今考えておりません。

次に、小さな第2点目、安房医師会病院の整備充実についての御質問でございますが、現在用地について検討中とのことでございますが、具体的な構想、計画はこれからと伺っております。今後具体化するに伴い、関係団体等と連携を図りながらできる限り協力してまいりたいと考えております。

次に、小さな第3点目、デイ・サービス事業の実施についての御質問でございますが、事業の拠点となるデイ・サービスセンターを館山特別養護老人ホームの事業として広域的に設置し、あわせてショートステイの拡充も含め推進してまいりたいと考えております。

次に、小さな第4点目、老人世帯への給食事業についての御質問でございますが、現在館山市社会福祉協議会において、ボランティア、民生委員等の協力により、月2回の給食サービスを実施しております。これらの給食ボランティア、館山市社会福祉協議会と回数の増加等を含め給食サービスの今後のあり方について、ボランティア活動を阻害しないようふれあい給食サービス事業を継続的に協議してまいりたいと考えております。

次に、小さな第5点目、高齢者割引制度についての御質問でございますが、現在公共施設の割引制度といたしまして、鳩山荘老人割引利用制度、博物館観覧料免除制度及び老人福祉センター無料制度等がございますが、各制度間の調整について今後も引き続き検討してまいりたいと考えております。

次に、小さな第6点目、白内障眼内レンズ手術の助成についての御質問でございますが、現在厚生省は白内障の機能回復の代替手段である眼鏡やコンタクトレンズとのバランスから保険適用は認めておりません。しかしながら、来春の診療報酬改定での検討課題の一つと踏み込んだ姿勢も見せております。市といたしましては、この助成について新年度予算編成の中で検討しているところでございます。

次に、小さな第7点目、年金証明手数料の無料化についての御質問でございますが、各種証明手数料の受益者負担の原則や他の手数料との関係もございますので、今後引き続き検討課題としてまいりたいと考えております。

大きな第4、小さな第8、大きな第5、この問題につきましては教育長よ

り答弁させます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） ちょっと御報告申し上げます。

ただいま火災が発生したわけでございますが、船形の漁民アパートの4階が燃えたそうでございます。現在はおおむね鎮火したそうでございますので、御報告いたします。

教育長。

（教育長福原 修君登壇）

◎教育長（福原 修君） お答えをいたします。

大きな4の小さな8、小中学生の心電図の検査の実施時期を早めることについての御質問でございますが、財団法人結核予防会千葉県支部という団体がございまして、その団体と協議し、平成4年度から小学校1年生と6年生につきましては3学期に検査を実施することとなりました。また、平成4年度に限り、新中学1年生につきましては移行措置といたしまして6月に検査を実施する予定となっております。

それから、大きな5、民間団体による学校を通じた通学路の安全対策の調査につきまして、いかなる団体であるかという御質問でございますが、21世紀の子供を守る会、代表者は渡辺昭治という方でございます。

なぜ教育委員会が実施をしなかったかということでございますが、現在御承知のとおり教育委員会といたしましては平成元年度、2年度につきまして交通安全推進事業を行ってまいりまして、現在もその後を受けました交通安全対策協議会が設置されておりまして、交通安全につきましては努力をいたしておりまして、その交通安全にプラスすることの調査でありましたので、その調査を許可いたしました。

なお、現在学校教育機関を通じまして種々な調査や作品の募集が行われておりまして、教育委員会といたしましては日常の教育活動に支障のないよう、また教育上プラスになることのみを認めております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） リゾート開発の問題について、私は市長さんは大変幸運な方だというふうに実は思っていたわけです。と申しますのは、リゾート開発の見直しというのを掲げて選挙当選をされて、そうしたら今——そのころはとても見直しなんかって——勇気ある発言だったわけですから、今はみんな言い始めたんです。ところが、みんなが言い始めたら市長はちっともそのことを言わなくなっちゃったというのは、これはどうもおかしな話だなというふうに私は思うんです。ですから、市長さんは幸運な方で、そら、おれが今まで言ったとおりになったじゃないか、今こそそういうふうには言えないのにそう言わないというのは一体どういうことなのかなということでは不思議に思うわけです。新聞等でももうみんなリゾートは見込みがないという論調がもう次々出ているわけです。そこで市長さん、どういうふうに考えられておるのか。

一番大きなポイント——いろんな問題あるんですけれども、大きなポイントは需要の見込みがまずある。需要見込みについて大阪の方で調べたら、今の大体6倍ぐらいリゾートのためにお金を近畿圏の人がみんな使わないと今のリゾートは成立しないとか、そんなことは当然考えられないと思うんです。実際10年後に本当に今の館山のリゾート、お客がたくさん来るだけのリゾート需要が見込める、今でもそういうふうに思っているのかどうか。その辺についての見直しがまず必要なんじゃないかなと思うんです。館山市ではリゾートの需要、これどのくらいだと見ているんですか、10年後の計画でつくったときの。それ今でも本当にあると思うのどうかお聞かせいただきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） 申し上げます。

これは民間プロジェクトの経済効果としての企業の方からのデータということで御理解いただきたいと思います。まず、雇用関係でございますが、これは実際には現在この3つの中のレインボータウンは休止しておりますので2つということになりますが、当初これ3つすべてということでもって、ちょっと差し引きしてごさいませんので、申しわけございません。雇用関係に

つきましては、大体 1,300から……

◎21番（神田守隆君） 雇用のことじゃなくて、需要増はどうですかと聞いているんです。

◎経済部長（脇田元始君） それでは、消費関係として 139億、かような経済効果というのを考えております。

以上であります。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） お客さんが来れば 139億ふえるという計算をしているんでしょうけれども、その数字が何倍のお客さん——今館山に来る入り込み客の2倍なのか3倍なのか4倍なのか、どういう規模で考えているのかということを聞いているんです。いかがですか。県は2.2倍だと見ているんです。県は房総リゾート全体で今の入り込み客の2.2倍になる、こういう数字を持っている。館山市は何倍になると思って見ているんですか。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） その辺の計算はしておりません。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 房総リゾート全体の計算は2.2倍。房総リゾートいろいろとありますから、どこのところでは5倍だ6倍だとかってあるんでしょうけれども、大変な需要増を見込んでいるわけです。しかも、どれもこれもみんな安いんじゃないんです。金のかかるリゾートなんです。そうすると、首都圏の人が本当に——そしてそれが千葉県だけでやりますよ、このリゾート開発が。首都圏の中ではこの南房総しかありませんというんならばそれはいいでしょうけれども、あっちでもやっている、こっちでもやっている、そういうリゾート構想全部立てたんだから。そうしたら、首都圏の人が今のリゾートにかかわる費用の5倍だ、6倍だというお金を毎年つぎ込まなきゃ成り立たないという計算になるのこれ当たり前でしょう。だから、このリゾート構想のうち幾つ残るのか、いや全部だめになるんじゃないかという話までされるわけなんです。ここが今一番の根本問題。財界が心配しているんです、このことで。日本の開発銀行といえは大変なところです。こういうとこ

ろがこれはもう見込みがないよと言っているのはそういうことなんです。

そういうことを前提にしてどんどん、どんどん話を進めていく。ちょっと待てよ、ブレーキが必要じゃないか。市長さん1年前にブレーキが必要だと言ったんです。市長さん、本当にこの辺どう考えているんですか。こういうことでやっていったら大変な失敗で、大変な負担が将来にかかわることになりかねないと私心配するんです。間違いない。これだけの需要増は、リゾート客はふえてくる。間違いないんだ、10年後は万々歳だと言えますか。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） 先ほどの瀬戸内海ですか、6県のお話出ました。この件につきましては、積算、算出詳細については私の方は存じ上げておりませんが、記事を読ませていただいてある程度は理解しているつもりであります。

それで、ただいま一連のそういった入り込みが何倍か館山が見ていないというふうに申し上げたんですが、現時点ではそのリゾートも、県と協議中であるからそれを全然もう動かさないんだよということではなくて、私どもは先ほちょっと雇用問題も申し上げたら、経済的な問題だけということでお話し申し上げませんでした。そういったもろもろの効果がある、そういうふうには見込んでおります。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） これは県の基本計画です、リゾートにかかわる。ここでは、現在37市町村、入り込み客は2,933万人です。これが需要の増加ということで新たに3,600万人ふえるだろう、こういう計画なんです。今の2.2倍になりますよという、これが県のリゾート開発計画なんです。これを前提にして消費がどうふえる、経済効果がどうだとやっているんです。今の入り込みの客の数が、これが本当に来るのか来ないのか。来なかったら今やっている計算は何ら意味がないんです。根本なんです。本当にこの10年後リゾートがそれだけの大きな需要を呼ぶのかどうか、まさに根本から問題をとらえ直さなきゃならないところにきているんじゃないかと思うんです。

大林組が撤退をいたしました。撤退してそんなに市の方に負担はないんじゃないか。4年前の議論では、館山市が土地を買ってあげて企業に提供してあげろ、そうじゃなきゃうまくいかないんだという議論までありました。半澤市長はさすが賢明で、それは違う。インフラ整備は、社会基盤整備は、これは市がやるんだ。しかし、土地の取得、これは民間でやる。こういう線ははっきりしているんだという立場をきちんと貫きました。その点では大変見識があったと思います。

そこで、じゃそのインフラ整備の関係では市民に負担が来るわけでしょう、社会基盤の整備という点では。私はそういう点じゃ水の問題が重要だと思っているんです。リゾート開発のためにどれくらいの水需要が出るというふうに踏んで今の南房総広域水道企業団の計画はつくられていますか。

◎議長（福原 勤君） 水道課長。

◎水道課長（鈴木信一君） リゾート開発による水の見込みでございますけれども、水の需要予測方法につきましては、厚生省通達の水道施設設計指針に基づきまして、給水人口及び給水量についての統一的な指標で行われているわけございまして、将来このリゾート開発も含めた地域の発展過程によっては、開発の発展過程によっては水量の増減が予想されるわけでございますが、現在平成12年を一つの目標として設定をされております。水の需要が設定されておりますので、大きな水の相違はないと考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） いや、そんなこと聞いているんじゃないんです。何トンリゾートのために必要かということを聞いているんです。1万2,000トン新しく水が館山市使えます。しかし、そのうち4,000トンはリゾートのための大体水需要だという形で見込みましたよ、こういうことじゃないんですか。

◎議長（福原 勤君） 水道課長。

◎水道課長（鈴木信一君） リゾート開発に伴う水の実際の数字でございますが、約4,000トンを見込んでございます。



以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 新しくこのリゾートの関係で4,000トンからの水を必要としている。しかし、リゾートの計画がうまくいかないよということになって撤退だとなったならば、膨大なこの4,000トンの水というのは——ほかでいろいろ使う用事が出てくれば、それで消費できるからいいんだということにもなるんでしょうけれども、最悪のシナリオではみんな余っちゃうんです。

その場合に、この南房総広域水道企業団というのは県営事業じゃありませんから、県が責任持つんじゃないんです。17市町村が共同で責任を負わなきゃならない、そういう性格でしょう。となれば、責任水量制をとるという問題もありますけれども、結果的にはこの17市町村の住民が責任をとらなきゃならない。館山市だけじゃないんです、これ。17市町村みんなリゾートやっているんです。みんなやっているんです、これ。ほとんどやっているんです。そういうところのリゾートがみんなうまくいかなかったとなれば、膨大な水の量が余るとなったら、この水はだれがどうやって負担するのかという問題は実に深刻な問題だと思うんです。だから、この問題で館山市の市財政が大変な重圧をこうむらないとも限らない。だから、私はこのリゾートの開発計画という問題については、今の時点で深刻な検討をしないと将来に大変な禍根を残すことになりかねない、こういう点を言っているんです。

市長さん、この水が——4,000トンの水が——本当にちゃんとお客さんがついてくれるか自信持てますか。いかがですか。

◎議長（福原 勤君） 水道課長。

◎水道課長（鈴木信一君） 答えいたします。

現在この水量の推移でございますが、この数字は現在では正確な数字であると私どもも考えて前に進んでいる状況でございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） まあいいでしょう。それはそれでわかりました。

とりあえずそういうふう担当者は答えなきゃいけないんです。わかります。

しかし、市長さんは政治家ですから、現在30リゾートの承認地域のうち——国土庁が調査したんです。22のところはもうリゾートの計画変更したいという希望なんです。8つのところはうちのところは今までどおりやりますよと言ったんです。千葉県がそのうちの一つです。しかし、全国のリゾート——宮崎県は既にもう具体的に変更の申請まで出していますから、みんな困っちゃっているんです、ほかのところは。だけれども、どういうわけだか千葉県というのはかたくなに残りの少数派なんですけれども、この千葉県のリゾートの中心都市はだれが何といったって私は館山だと思います。だから、市長の責任は重いんです、見直しの問題について。市長がこの問題について政治的な判断どういうふうになさるのか、これは県も重きを置かざるを得ないんです。一体この館山市がこの問題についてどのような見解を持つのか、市長さんがどういう見解を持つのか、これが大変重要だと思うんです。私市長さんの見解をお聞かせ願いたいと思うんですが、いかがですか。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） この総合保養地域整備法によります——いわゆる通称リゾート法によりますこの整備計画、今じっくり構えて一步ずつ歩んでいるところでございまして、今の段階で大きな問題が目の前に出てきたとか、そういう段階じゃございません。じっくり構えて一步ずつ歩んでいる段階でございまして。貴重な御意見として承っておきます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 貴重な意見ですから、もう胸にじっくりと受けとめていただきたい。

これ以上やってもしょうがないでしょうから次にいきますけれども、文化ホールの問題でありますけれども、私はこの文化ホールというのは、やはり一番中心的な問題はいわゆるソフトの面といいますか、いうことになるんじゃないかなと思っております。そういう点から、私は今大事なことは、いわゆる多目的文化会館というようなものは、これはもう時代おくれで実態に合わない。非常に問題があるんだ。もう全国各地でその問題についての資料が

たくさん出ています。そうすると、どういう文化会館にしていくのか。それは何も館山だけじゃなくて、鴨川も含めまして、この安房郡全域の、南の地域全域の住民の文化の高揚にとって必要なものと自信の持てるものでなきゃいけないと思うんです。鴨川の住民にとっても、ああそういうものならばぜひつくってもらいたい、館山につくってもらいたいというようなやはり意見になるようなものでなきゃならないと思うんです。

そういう点で、文化ホールといった場合にぼやっとしているんですけども、音楽の内容でやるのか、あるいは劇場にするのか、全然内容が違うんです。そうすると、今大事なのは、安房郡も全部含めまして、鴨川とかそういうところも含めまして、今この地域の文化の高揚のために必要なホールは何なのか。何も一つに限らなくたっていいんです。2つ3つつくったっていいんです。私は富浦は立派だと思います。富浦町では人形劇の会館をつくるんだそうです。人形劇専門のそういう劇場をつくる。なかなか立派なことだと思います。それぞれの市町村がそれぞれの特色を持ちながら、そしてこの安房地域全域の文化の高揚を図っていく、こういう中にこの館山の文化ホールの問題位置づける必要がある。

そういう点で、やはり住民の合意なり論議の場、どういう文化をつくっていくのかという、そういう場をこの行政がつくり出していく必要があるんじゃないかと思うんですが、あるいはそういうものを援助していく必要があるんじゃないかと思いますが、その辺についていかがお考えですか。

◎議長（福原 勤君） 市長公室長。

◎市長公室長（佐藤輝雄君） 今神田議員が御指摘のとおり、従来からのいわゆる多目的ホールからいわゆる単一目的ホールという方に考え方が移っているということは聞いております。現在まだ具体的に決定していない段階でございますけれども、去る11月の27日には住民の会の理事会が開かれまして、その中でもそのような話が出ているということでございます。61年の7月に半島振興法の中で位置づけを要望した段階におきましては、一応音楽ホールを中心にしたということで要望をしてございますけれども、それから相当年月もたっておりますので、今後文化の拠点として一番ふさわしい状態に持っ

ていくために、住民団体と今後も協議してやっていきたいと思っております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） いろんな工夫が必要かと思いますが、館山の住民だけではなくて安房郡全域となると、いろんな思惑なんかが絡んだりしてややこしい話もないわけじゃないと思いますけれども、その辺のぜひ御努力を期待したいということで、次にいかせてもらいます。

児童クラブ事業についてであります、いわゆる学童保育については場所、方法、指導員について検討している。かなり具体的な段階になってきたなと思うんですが、これまでの話では大体館山小学校、それから北条小学校、那古小学校、この3つを対象に調査もしたというふうに伺っていたというふうに――一応この3校ということでとりあえず始めるということなのかなと思うんですが、場所の問題あるいは方法の問題、指導員の問題ということで、学校は来年度相当教室があくんじゃないんでしょうか。もう児童数がどんどん減ってきていますし、昨今の新聞報道では教員が大分安房で要らなくなっちゃうという話が――クラスの数が減ってしまうという問題で、私は学校の施設を利用して、それで子供に理解のある方――具体的には退職された教員の方であるとか、あるいは保母さんの経験のある方だとか、そういう方に指導員になってもらえれば、住民としては大変安心して子供の放課後の面倒を見てもらえるというふうに思うんですが、大体そんなようなことで――市の臨時職員という形になるんでしょうか。そういうようなことで、身分的にも保障もして実施をされてはいかがかなと思うんですが、いかがですか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） この制度につきましては非常に――市長の答弁のとおり、大変重要な問題ということで位置づけて調査しているところでございます。

この方法論になるわけでございますけれども、いわゆる市の直営または委託の場合に国、県の補助がつくということで、国も積極的にやっているわけ

でございますけれども、県内を見た場合に、やはり直営でなくて、いわゆる補助制度を用いて、いわゆる市の単独でやっている。これが木更津以北のところにあるわけでございます。そういうことから、ただいま御指摘がありました場所、それから方法、そういうものも総合的に考えまして、これから個々に検討してまいりたいというふうに考えております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 木更津の方にも聞いてきましたけれども、やはりもうやむにやまれず父母方が自主的な団体をつくって始めたといういきさつがあるということのようですから、やはり市が責任を持って直営でやらうことが一つの理想だという御意見でありました。

それで、館山市はこれから始めるに当たっては思い切ってそういう内容で進める。直営の事業として進めれば、父母の立場からもより安心して子供の放課後を任せられるという内容になるし、非常に進んだ内容だというふうに思いますので――残念ながら木更津だとかあの辺見ますと、余り直営でといういいケースでなくて、内容を聞きますと四苦八苦です。本当に大変四苦八苦で、いやこれは大変だなというようなことを思いましたから、やはりそういう方になってもらう方の身分の保障なんかも直営ですとはっきりいたしますし、そういうことでぜひ実施してもらいたいと思います。

私が調べている中で、人件費でも134万ですか、補助基準が。それだけの人件費補助というようなことからすれば、決して悪い内容ではなくて、いい内容でできるんじゃないかなと思います。

それから、次の第4点目でありますけれども、お年寄りの給食ですけれども、先ほどの御答弁ですと、今後のあり方でふれあい型を継続していくというお話で、生活援護型については今後検討していくというふうに理解しているのか、さっきの御答弁ですと。というのは、12月県議会の中で、国が制度を実施すれば、県としても補助事業としていく形で検討課題ですという答弁をしているんです。新年度なるかどうかというのはまだ予測を許しませんけれども、そうなるとすれば、これはもう当然市としても考えなきゃならない

有力な論拠といえますか、財政的な負担という点から見ましても今までと格段に違う。市の単独事業ということで議論してきたことは全く違う段階になりますから、そういうことで御検討いただけるというふうに理解していいんですか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 現時点での考え方としては先ほど市長から申し述べたとおりでございます。このボランティアのふれあい給食事業も昭和56年から続いているわけでございます。そういう人たちの本当に心温まるこういう制度、それを引き続き生かしていきたいということが基本でございます。

そういうことで、また情勢が変わりますれば改めて検討するという事になるかと思います。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） まだ12月県議会のことですから情報が入っていないかと思えますけれども、テレビ、新聞等で報道されている内容ですので、早速事実の確認もしていただいて今後の資料にしていきたいと思います。

それで、第5点目でありますけれども、民間団体による通学路の安全対策調査の件でありますけれども、交通安全の推進という点でプラスになる調査だからということで、教育委員会としては教育長お認めになったというお話でありますけれども、アンケートの結果については報告——その内容については報告されておらないんじゃないですか。いかがですか。

◎議長（福原 勤君） 教育長。

◎教育長（福原 修君） 報告はありません。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 善意にとりまして、これからあるのかなというふうに思いますが、私は端的に申し上げますけれども、この問題をめぐって、ある団体による調査ということで、昨日の永井議員の質問で質問通告された中で、ある団体をとというふうに11項目にわたって質問内容が詳細に述

べられましたけれども、このある団体というのは私の持っている資料の21世紀を担う子供を守る会の質問の設定項目と全く同じであります。ということは、教育長には資料の提出はないけれども、永井議員にはその資料の提出があった、こういうことになるのではないかなということで、大変摩訶不思議なことだと私は理解するんです。この団体に対して教育長としては、こうしたアンケートの結果——これは行政にその要望をしていくんだ、善意で皆さんそう思ってアンケートに協力したと思います。これはもう行政に即提出されて、行政はそれなりの対応をしてくれるものだと思ってアンケートに協力したところが、実際には教育長のところに提出はない。しかし、議会の質問材料としてそれが使われた、こういうことではないかと思います。私は質問することは決して悪いことだと思いません。しかし、ちょっとこれは筋が違ふんじゃないかなというふうに感じるんですけれども、教育長はいかがお考えですか。

◎議長（福原 勤君） 教育長。

◎教育長（福原 修君） 私の方も現在の子供の安全ということで、子供の生命を守らなきゃいけないというような考え方に立っておりましたので、このような調査をやりたいという希望があったときには、非常にこれは私たちの手の及ばないところまでやったださるなということで期待してお願いしたわけですが、御指摘のとおり21世紀を担う子供を守る会というものをもう少し正確に分析をすればよかったな、こういうふうな気持ちを持っております。また、まだ御報告がございませんけれども、この報告の資料を私たちもぜひ得たいなという気持ちでおります。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） こういう場で私が言うのもどうかと思うんですけれども、やはり議員としての立場ということから考えますと、こういう資料はのどから手が出るほど欲しい資料です、率直に言いまして。だけれども、その資料の収集というのはやはりルールというものがあるし、こういうことが学校現場で次々に行われるということになりますと、学校現場では大変困

るんじゃないか。したがって、教育長さんにおいては — 先ほどのお話ですと、いろいろな調査の依頼が来るけれども、教育上プラスになるかどうかということで、教育委員会のサイドでコントロールをしているんだという御説明がありましたけれども、今回のこのアンケートをやったんだからおれのも認めろ、これも認めろというようなことで、前例とすることはあってはならないと思うんですが、その辺はいかがですか。前例としないということによってよろしいですか。

◎議長（福原 勤君） 教育長。

◎教育長（福原 修君） もう一つ我々の方で注意しております学校の教育活動に支障を来さない、この2点を私たち考えておりまして、そういう観点に立ちまして、今度の場合は教職員10名、御父兄20名という — わずかでございましたので承認をいたしましたけれども、今後は十分そのような依頼があった場合は、そういう2つの立場から検討して認めるか認めないかの判断をしたい、このように考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 以上で21番議員神田守隆君の質問を終わります。

次、6番議員植木 馨君。御登壇願います。

（6番議員植木 馨君登壇）

◎6番（植木 馨君） ベテランの神田議員の後で大変心苦しいですが、平成3年定例議会通告質問最後の締めくくりをさせていただきます。

私は今次定例会の議案質疑に先立ちまして、第1点、館山市基本計画について、小さな1、人口見通しと若年層流出防止対策について、小さな2、地域振興対策とその見通しについて、第2点、住民の行政参加について、第3点、健康づくり体制の充実について、第4点、県道館山大貫千倉線拡幅整備に係る生活雑排水路設置について、神余地区市道7034号線拡幅整備と今後の見通しについて、以上4点について御質問させていただきます。

第1点といたしまして、館山市基本計画であります。基本計画全般となりますと間が広く、次の2点に絞り質問させていただきます。本市の平成3年3月策定された第2期基本計画は、豊かな市民生活が享受できる活力ある地



域社会の構築と文化都市実現を目指し、5カ年計画をもって庄司新市長のもとにスタートをいたしました。私は市民の代表として、この計画に沿って立派な骨格に肉と皮をつけて育てていかなければならないと思っております。

まず、小さな第1点であります。人口見通しと若年層の流出防止対策について御質問いたします。基本計画第5章にわたる事業内容を遂行していくには膨大な財源を必要とします。その財源を生み出すのは、言うまでもなく市民——言葉を変えて言えば労働人口です。この労働人口が多ければ多いほど市の財政は豊かになるばかりでなく、消費人口が増大することにもなります。その波及効果は、消費の伸びやあらゆる機関の進出により、市全体が活力にみなぎるまちに変貌していくことになります。そのようなまちをつくり出すことが本市の自主財源を豊かにし、健全財政のもとで基本計画遂行が容易になっていくと思います。

このようなことを踏まえ、本市の人口動態を見ますと、昭和25年から30年代にかけ人口5万9,000人台をピークに徐々に減少し、現在では5万4,800人台に移行しています。その原因は出生数の減少と見ているようですが、確かに自然減少はありますものの、これが人口減を生み出す最大の原因とは考えられません。ここで注目しなければならないのは高校以上の新卒者の流出です。いずれにいたしましても、この若年層の流出が本市の人口減を生み出す重要な原因であると考えられます。高齢化の進む本市にとって、市の将来を背負っていく若者の流出は大きな問題点としてとらえていく必要があると思います。10年、20年後の本市の将来を考え、また活性化の上にも行財政の面にも大きな影響を残す結果になると思います。しかるに、本市の行政対応を見ますと、その点が大変弱いように思われます。基本計画では若年層流出防止対策が具体的に示されていないように受けとめています。

そこで、若年層流出をいかに食い止め、人口増加につながる具体的な対策をどのようにお考えになっておられるかお伺いしたいと思います。そして、今後の人口増加の見通しについての御所見を賜りたいと思います。

次に、小さな第2点、産業振興対策でございます。この点について、私は漁業、農業、工業、商業について具体的に御質問いたします。これは今まで

先輩の方々が幾度となく取り上げました。それだけに、本市の活性化を図る上に最も大切な事柄だと思います。

本市の平成3年から5年までの根幹実施計画を見ますと、基盤整備、農道整備、畜産公害対策事業が大きな事業内容となっています。確かに大切な事業です。推進していかなくてはなりません、農業経営の合理化実施事業に最も力を入れるべきだと思います。現段階ではイチゴの育苗施設、神戸地区の花卉鉄骨ハウス建設計画2件のみで、まことに寂しい限りです。近代経営を推し進めていく上に、地域の特性を生かした農業振興が最重要事項と考えます。いずれにいたしましても、今述べた計画は本市の農業地域の一部でございします。大規模な団地化の方向へ向け、いま一步の努力が必要であると思ひます。

一方、米作においては、政府の減反政策、外国ではガット・ウルグアイラウンドの米市場自由化の要求がされており、今後の見通しは大変厳しいものが見られます。また、酪農については、特に乳牛関係では、飼料の値上がり、牛乳生産の過剰や子牛の暴落等、これまた大変厳しい現状です。そのほか、農産物価格の不安定な中で、現在農家は経営の安定策に何をとるべきか苦しみ、途方に暮れているのが実情です。農業はもうだめだ、割に合わない、おれ一代で見切りをつけようと思っている農家は少なくありません。後継者育成を考えると、何か救う手だてを考えなければいけないと思ひます。安房郡市の中にも全国各地でもその苦しみから脱却し、立派に成功している農家もあるわけですから、そういったところを探求し、新しい農業振興の芽を育てる意味からも、行き詰まっている農業に活力を与える行政の力が最も必要な時期であると思ひます。そして、働く喜び、生きる喜びの持てる農業、若者が魅力の持てる農業を農民と行政が一体となって環境をつくることが必要であると存じます。

次に、水産関係ですが、漁業関係の悩みは農業と同じように思われます。過去の事業等を見ますと、漁港の整備充実を初め、人工魚礁による漁場づくりや育苗の放流等積極的に推進してきましたが、漁業従事者の減少は一途をたどっております。その原因はどこにあるのか、漁業を背負っていく若者が

魅力を感じ、定着できるよう行政として何をなすべきか、どう取り組むべきか、これも農業と同じくいま一步の努力が必要かと思います。さらなる漁業発展に向け、その振興対策に手段がありましたらお聞かせください。

次に、工業関係でございます。本市の工業は、過去地理的悪条件が重なり、飛躍を図りにくい面があり、事業所数、従業員数においても一進一退の現況下にありました。特に、富士ディーゼル閉鎖は社会的に影響は大きかったわけですが、その反面半導体企業の進出により救われてきております。また、東京湾横断道路、東関東道路、館山白浜線バイパスの開通も見込まれています。水道整備も着々と進められる中で、平成7年——将来に向け、発展の可能性の光がようやく見えてまいりましたのは御同慶にたえません。そのような希望に満ちた基礎的条件の上に、県の協力のもとにインダストリアルパークの基本計画が樹立され、来年早々にも工事着工の方向決定がなされようとしています。工事完成の暁には新たな企業誘致計画が進められると思います。現段階としてどのような企業体の導入をお考えになっておられるか、またいつごろから誘致活動をどのようになされるのか、具体的にお伺いをいたします。

次に、商業関係であります。現在商業問題で重視しなければならないことは、さきに述べました道路問題が解決され、首都圏を結ぶ大動脈が確立されますと、商業エリアが接近し、消費動向がさらに大きく変化していく可能性が考えられます。交通の利便性から木更津、千葉、東京が遠くて近い状態になり、消費人口の中央へ向けての移動が行われるからです。そのような点を踏まえ、現段階において、駅周辺はもちろんですが、長須賀館山地区、那古船形地区の商業の振興をどうお考えになっているか、また若者が魅力の持てるまちといたすについて特段のお考えがありましたらお伺いをいたします。

次に、第2点といたしまして住民の行政参加でございます。私はこのたび市当局並びに議会の御理解をいただきまして、全国市議会議長会主催によるニュージーランド、オーストラリアの行政視察に加わり、行ってまいりました。視察の中身として、福祉、観光、リゾート開発等本市の行政面に生かしていきたい点がいろいろありますが、その中で特にニュージーランドの表玄

関、オークランド市、人口93万人、観光地として発展途上にありますロトルア市、人口6万人、南の島中心都市、クライストチャーチ市、人口30万人の3市を視察しましたが、印象として私の脳裏から離れないのは、どのまちも非常にきれいで、市民1人1人がまちを大切にしている点です。各家庭の庭は150坪以上ありますが、その庭は芝や木や花で彩られ、きちんと手入れが行き届き、町内の公園や空き地は統一されたように掃除、手入れがされ、庭園のまち、庭園の国と言われるだけあって、その貫禄をまざまざと見せつけられました。ガイドさんの話ですと、美観には注意深く、きれい好きな国民性と、自分のまちであるから自分たちできれいにするんだという自治意識が強いことと、ボランティア意識が非常に旺盛であるとの話を聞き、本市においてもこのような意識の高揚ができないものかと改めて胸におさめ、帰国いたしました。

我々館山市民も自分たちのまち、自分たちの地域は自分たちでつくるんだという意識で日常生活に対したなら、すばらしいまちづくりができると思います。そのためには、行政の一部に市民参加を求め、市民が自発的に参加するような施策が必要かと存じます。例えば、自分のまちの美観をどう改善しようか、観光に備え、公衆便所を地域の人たちでいつもきれいにしておこうか、公園の掃除は老人会でやっておこうか、道路の空き地を利用して花を植えて美観をよくしようか、そういう具体策が思い浮かびます。また、市内にはごみ収集所が景観を損ねる意見もあり、その点工夫もすべきだと思います。そのほか、行政各般にわたり市民参加を求める部分はかなりあるかと思えます。そうすることにより、自治意識も高まるものと考えられます。すばらしいまちをつくっていくためにも、行政におんぶにだっこの時代から、市民がこぞって自分たちのまちは自分たちの手でつくるんだ、誇りを持てるまちをつくるんだという――市民意識を変えていくことが必要かと思えます。

そこで、市民の行政参加による自治意識を高めていくにはどうしたらよいか、市長の御所見をお伺いいたします。

第3点、健康づくり体制について。本市は平成元年、健康長寿都市の宣言をし、自分の健康は自分で守る市民意識の高揚と、生涯を通じる健康づくり

の推進を基本に、総合検診や健康教育、健康相談等総合的施策を展開してまいりました。その活動実績は県下でも誇りの持てる内容でございます。私も高く評価するものです。

私は健康推進事業のさらなる充実を図る上で、次の２点ほど質問させていただきます。第１点は、きょうまで素晴らしい活動実績を上げられたのは、必死になってやってこられた保健課の皆さんはもちろんですが、その中で働く保健婦の方々、栄養士の方やボランティア意識を持って協力くださいました保健推進員の方々の活動のたまものと思います。

そこでお願いしたいことは、本市は保健推進体制の中で保健婦さんは11名と聞いております。県下の状況と比較――人口割合で見ますと、十分であろうかと思います。しかし、栄養士の件でございますが、パートで雇っている点でございます。栄養士の仕事はこれから本市にとって、市民の日常生活の中で食生活改善による健康保持には一番かかわりを持っている重要なポストです。常に市民の食生活の相談相手となって行動していく上にも、また地域の保健推進員の方々が市民から高く評価される水準の高い育成をする点から見ても、パートでは十分な活動はできません。かかる点等を考慮され、常勤職員として採用すべきではないかと思います。これについてお考えを承りたいと思います。

第２点目といたしまして、150名の保健推進員がおりますが、まだ市民全般にわたり周知されていないように思います。笑い話ではございませんが、保健推進の仕事にお伺いしましたと言ったら、生命保険の方と間違えて追立てをかけられた話もございます。地域の市民の皆さんに保健推進員はこんな立派な仕事をしていますという内容をわかりやすい文章で各地域の区民館、青年館に貼付し、周知徹底を図っていただきたいと思いますが、いかがなものでしょうか、お伺いをいたします。

最後に第４点、県道館山大貫千倉線拡幅整備に係る生活雑排水路設置について、神余地区市道7034号線拡幅整備の見通しについて……

時間でございますので終わりにしまして、再質問で伺います。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

(市長庄司 厚君登壇)

◎市長(庄司 厚君) ただいまの植木議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1の館山市基本計画についての御質問でございますが、小さな第1点目、人口見通しと若年層の流出防止対策及び小さな第2点目、地域産業振興対策とその見通しについて一括してお答えいたします。

まず、人口見通しについてでございますが、平成2年の国勢調査では5万4,575人と、前回調査より1,461名の減少となっております。現状のまま推移した場合には、出生率の低下による年少人口の減少及び高齢人口の増加が恒常化し、人口の高齢化が進行するものと見込まれております。これに対処するために、基本計画に掲げてございますさまざまなプロジェクトの推進を図るとともに、産業振興対策等を積極的に取り組んでまいり所存でございます。

次に、具体的な産業振興対策のうち、農業後継者問題につきましては、全国的な問題であり、国は生産性の向上と活力ある農村社会の実現を目指して諸施策を推進しているところでございますが、館山市といたしましても中核的担い手の育成確保を図るため、農地の賃貸等による集団化を促進するとともに、新しい時代の農業に対処できる技術習得の場としての組織づくりのため、農業企画研究会育成事業、農村青年グループ育成事業を実施し、後継者の育成を図っているところでございます。

漁業者の減少傾向と後継者不足はやはり全国的な問題でございます。この原因といたしましては、水産資源の減少に伴う収入の不安定等があると考えます。したがって、平成3年度はつくり育てる漁業として種苗放流事業、付加価値を高める漁業として増養殖施設設置事業及び水産資源確保のため築いそ事業等を実施しているところでございます。今後も積極的に助成してまいりたいと存じます。

次に、インダストリアルパークの目的と誘致対象企業でございますが、海洋性リゾートタウンとの連携により、自然環境との調和に配慮した工業団地の建設を目的としており、誘致対象企業は公害のない節水型の企業で、雇用力があり、若者がいつまでもこの場で働きたいと思えるような企業を考えて

おります。

次に、商業振興対策といたしましては、モデル商店街指定事業、商店街コミュニティモデル事業、中小企業利子補給事業、商店街共同施設整備補助等により商店街の活性化と魅力ある環境整備に努めてまいりましたことは御案内のとおりでございます。したがって、今後もこれらの事業はもとより、これから進出が予定されております大型店と既存商店が共存共栄することによって商業振興が図られるものと考えております。

次に、大きな第2、住民の行政参加についての御質問でございますが、これからのまちづくりは市民自らがつくるまちづくりが基本であると理解しております。御案内のとおり、館山市におきましては市民主体のまちづくりを重点施策として位置づけ、各種施策の展開を通じて、市民と行政の相互理解と協力のもとに市民参加のまちづくりを推進しているところでございます。特に、市民参加の環境美化運動といたしましては、清潔で美しいまちづくりを基本理念とするクリーン・アンド・ビューティフル運動を提唱いたしまして、町内会連合協議会、コミュニティ連絡協議会、商工会議所、観光協会、防犯協力会が主催団体となりまして、市民の参加を得ながら環境美化、河川浄化、花のまちづくり、暴力追放に取り組んでいるところでございますが、さらに市民参加のまちづくりが推進されますよう啓発啓蒙に努めてまいり所存でございます。

次に、大きな第3、健康づくり体制の充実についての御質問でございますが、生活習慣、栄養の偏り等に起因します成人病が増加しておりますので、これら疾病の予防、健康の保持増進を図るためには食生活における栄養指導がますます重要になってきております。御意見のとおりであります。栄養士につきましては必要に応じて雇い上げておりますが、近い将来常勤化に努めてまいりたいと存じます。

また、保健推進員につきましては、現在 147名の方々が総合検診を初め、健康教育、健康相談等、地域住民と行政のパイプ役として活躍されているところでございます。保健推進員の活動につきましては市広報や各地区の集会等で地域の皆様に周知を図っておりますが、今後もあらゆる機会をとらえP

Rを行ってまいりますとともに、保健衛生知識の修得のための研修等を行い、保健推進活動の充実に努めてまいります。

次に、大きな第4、県道千倉線拡幅に係る生活雑排水側溝設置と神余地区市道7034号線問題につきましてはこれからの御質問によりお答えいたします。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 植木 馨君。

◎6番（植木 馨君） 一応私の納得した、充実した答弁ありがとうございます。

実はこの第1点の人口見通しと若年層の流出防止対策でございますけれども、私のこのねらいは、やはり人口増加を図らなきゃ活力ある館山市はできていけないという、そういう観点がねらいでございまして、それについては特に若年層の流出が非常に目立つ、そういうことで、市としてこういった若年層の方たちが毎年どのくらい流出しているかという、そういうデータがあればお示し願いたいわけでございますけれども、私のところの一応このデータを集めるについて市の方へ言いましたら、安房郡市のデータはございましたけれども、市としてのデータがなかったわけでございます。それについて急遽議会事務局の方で一応準備してくれまして、一応このデータを集めたわけでございますけれども、一応今この人口の問題が若年層の流出ということを考えておれば、市としては必ずそういう担当の課がどういう推移を持っているかということ常により把握しながら、それに対する若年層流出対策を考えていくというふうにしていかないと、一応こういうデータがないということは、私が先ほど申しました — この若年層流出対策に対する行政の弱さがあるということを私は言うておりますけれども、まずこういったところから出てくるんじゃないかというふうに思うわけで、今まではこういうデータとかそういうものに対して関心を持って一応見てきたかどうか、そういった点をちょっとお伺いしたいと思います。

それから、第2点目としまして、やはり人口を増加させていくには、これから東関道ができますとますます一応都会との距離が近くなるし、通勤圏内とかそういう面で、安房郡市は木更津とか君津とか、そういったところから



見ますと非常に土地がまだ安うございます。そういったことで、市としてこれからの住宅開発計画とか受け皿的なそういう計画はおありになるのかどうか、その点もあわせてお聞きいたしたいと思います。既にこれはもう — 私もうずっと千葉県下回ってきますと、内房、千葉から市原にかけ、また外房は勝浦から御宿、それから九十九里にかけては、こういったことに対しては土地改良、区画整理組合とか、そういうものをつくってどんどん住宅団地をつくっているような面が見えますけれども、本市においてはそういったところがないということでございます。これからの人口をふやす受け皿的なそういう一応御所見があればお伺いいたしたいと思います。

この点についてお答え願います。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） 住宅開発の件でございますけれども、市としてはございません。全部民間にゆだねておるわけでございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 市長公室長。

◎市長公室長（佐藤輝雄君） 第1点の年少人口の流出の関係でございますけれども、資料は特に — 計画作成に当たりましては、人口の流出状況その他を一応対象にしながら計画してございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 植木 馨君。

◎6番（植木 馨君） 私の調べたところでは — これは53年から調べたんでございますけれども、53年、54年、55年とその当時の15歳、16歳、17歳の方たちが何人いるか、それで10年たった後に何人残っているかという、そういうことを調べたわけでございますけれども、本市の場合は — これは流入を含めたことでございますから、流入を含めますと、53年の方が一応 773名いたものが10年後には 303名減っている。それから、54年の16歳の方が 779名いたのが 302名、それから55年の 778人いた方が 300人、2,333人のうち 905人が一応流出しているわけでございます。だから、私が申しました — 人口減が若年層の要するに流出が最大の原因じゃないかということを私は言

いましたけれども、こうやって追っていきますと大体そういう形になっているわけです。今市長が答弁に申されましたように、1,400何がしかという数字を答弁で言いましたけれども、それを一応割ってみると、大体300人ぐらいはもう減っているということになるわけで、これは若年層の流出がほとんどこれを占めている。

だから、この流出対策をどうやっていくかという — これからやっぱり市の基本計画の中でお考えになって、まず子供たちの — 今いる中学生、高校生あたりに目を向けて、やはりこの方たちがこの土地に残るような政策、それからまた残るような気持ちの植え方をしていかなきゃいけない。そういった努力が足りないわけです。これは農業問題でも漁業問題でも工業問題でもしかりでございますけれども、そういった面の触れ合いというものが今までもう親任せであるから、親は — 百姓なら百姓の人たちが、さっき言いましたようにもう百姓はだめだ、見切りをつけようという、そういう家庭にもう子供が育つわけがないわけですから、だから農業なら農業でどうやってもう農業振興を図るということを子供たちと一緒にやっぱり考えていくような、そういう環境づくりというものを今後考えていかないと、これを4人でも5人でも残していけないということになるわけです。

特に、農業関係でございますけれども、やはり今どこでもむらおこしとかまちおこしとか、そういうことをやっておりますけれども、具体的なそういう案が出てこないんです、市としても。これは本当にいろいろな相互的な絡み合いがあって難しいかもしれませんが、でも一つ一つを解決するという考え方であれば何とかやれると思います。

例えばの話でございますけれども、牛がそういうふうにもう1頭今1万円だ、牛乳も生産過剰だというときに、じゃ我がまちでどうやって変えていったらいいかという、そういうことも考えたときに、これは北海道の池田町の話でございますけれども、池田町は牛を、ある程度町でそれを処分して、それで町でその肉を食べ、さらに余った肉は東京の — 池田町そのものが東京へと、レストランへ持って行って、そこでどんどん消費していくという、そして — 御存じでしょうけれども、ワインも自分の町のワインとしてつくっ

て、それをまた土地でも消費する。また、その東京のレストランでも消費するという、そういうふうな町挙げてのそういう対策を立てているわけです。1日10頭ずつつぶしていったって1カ月300頭ですから、1年間3,600頭の牛が処分できるわけですから、そういう方法も考えらるわけです。

そういったこれからの要するに館山市の例えば農業振興策に対しても何かそういうお考えを持っていただけないかなというふうに思うんですが、その点いかがでございましょう。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） ただいまの御質問にお答えいたします。

例えば農業経営 — 確かに後継者不足、先ほどのつながっています若年層の流出というのもやはりそこにもあるだろうと思います。農業の経営につきましては、何といたってもやはり経営の安定化、これが大事だろうと思うわけでございます。その面におきましては、基盤整備であるとか地場産業の開発研究、さらには後継者育成ということでもって先ほど市長は答弁申し上げましたけれども、それぞれの企画研究会であるとか、そのほか4Hクラブ等への助成もいたしておるわけでございます。そういったことでもって、やはり農業の全体経営としての魅力ある足腰の強い農業ということ、これはどうしても考えていきませんと将来に不安を抱く。したがって、農業の後継者は出ないということになろうかと思えます。そういう面におきまして、さらに今後とも種々の施策を進めてまいりたい、かように考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 植木 馨君。

◎6番（植木 馨君） ありがとうございます。

それで、今その4Hクラブの話が出ましたけれども、私もかつてはやっぱり4Hクラブをつくった発起人の一人でございますけれども、特にあの当時は農村の振興は自分たちの若い者がやっていかなきゃいけないということで熱心に取り組んだわけです。今こうやってみますと、神戸地区に少し残っている程度でございます。ですから、今そういう組織が、研究組織が今館山にどのくらいおありになるか、ちょっとそれをお聞きしたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） ただいまは館山市農業企画研究会がございますが、これが会員45名でございまして、市内全域にわたっております。それから、ただいまの4H関係につきましては、これは会員15名ということになります。若い方々では以上の2団体でございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 植木 馨君。

◎6番（植木 馨君） こういった農業振興に対して、市として組織づくりをしていくということが非常にやはり欠けているんじゃないか。やはりある程度の——50歳未満の層の方たちでもう一つ——これは現在できているところは別ですけれども、今行き詰まっているところをひとつ皆さん方で声をかけて、それでその音頭をとりながらこれからのむらづくりをどうしていこうかということを皆さんで考えていくという、そういう官民一体になった環境というものをさっきつくってくれと言いましたけれども、そういう姿が——やはり今後そこから芽を吹き出していくわけですから、つくっていただかないとなかなかこの農村の振興対策というのは出てこないわけです。

この間も市長に、じゃあ私がニュージーランドへ行きまして、ワインをこうやってあれしたら非常においしい。このワインを館山のワインで、ここは気候風土が合うから、これをひとつ館山ワインとしてみんなでもってもう全戸が植えて、そのワインをあれして、それでそれを今度は観光客が来ても、レストランでも食堂でも各家庭へ行ってもお茶がわりにどんどん出していく。そういうふうにして館山ワインを普及して、おいしいワインをつくって、それで観光と農業とを結びつけたそういうことをやっていったらどうか。

さらに、今言った——牛が今1頭1万円ですから、捨て値です。だから、そういったのを飼育して、それを1頭10万円ぐらいに1年半か2年育ててやれば、そうすれば農家の所得がふえるわけですから、だから要するに今そういう——じゃあそれを育ててどうしていこうかという農家のノウハウというのが非常に欠けているわけです。みんな早く言えば昔の馬喰さんみたいのが来て、捨て値でもう買っていってしまう。それはどっかへ売るわけでしょう

けれども、そうじゃなく、この土地でもってそれを飼育して、豊房の育成牧場もあるわけですから、そういったことで飼育して、1年間何千頭の飼育をしていこう。それを結局つぶして、それで一応畜産の方々の所得をふやして生きがいのある畜産業をやらせていこうというふうな、何かそういう手だてを一つ一つ考えてやらないといけないと思うんです。

そういった面が行政の中でおれたちの出る分野じゃないというもし考えがあったら、これは大きな間違いです。もう本当に官民一体になった気持ちでやっていかなきゃいけないと思いますんで、そういう研究グループをこれからひとつ行政の方で企画をしまして、声をかけながらみんなで考えていくむらおこしのひとつ機会をつくっていただけたらと思います。その点をひとつ要望しておきます。

それからもう一つ、漁業関係でございますけれども、漁業も非常に行き詰まり状態ということで、いろいろな——マダイだとかヒラメだとかクルマエビだとか、それからチョウセンハマグリだとかアワビだとか、いろんな放流をしているようでございますけれども、その現在の魚礁とか、そういったところへの放流の規模ですか、どのくらいおやりになっているか、もしおわかりだったらお聞かせ願いたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） 申し上げます。

平成2年度の実績として申し上げますと、アワビが86キロ、ヒラメが9,250匹、マダイが7万匹、クルマエビ20万匹、こんなような状況でございます。

◎議長（福原 勤君） 植木 馨君。

◎6番（植木 馨君） この量からいって、ちょっとこれではもう漁業の活性化なんていうことは到底考えられないと思います。やっぱり何百万匹だとか何千万匹だとか、そういうやはり数を放流していかなきゃいけないと思うんです。そのやはり目的というのはどこにあるかといったら、要するに一本釣りなら一本釣りが十分飯食っていかれる、それからあとは釣り船なら釣り船の方たちが都会の釣り船のお客さんをどんどん誘致ができるような釣り船業がたくさんやはりこれから誕生していくような、漁業協同組合の皆さん方

によってそういうものがなされていくような——そうすると、結局東京へ行ったのが、リタイアしている人は帰ってきます。帰ってきて、じゃあおれも釣り船つくってやろうかというふうになる。そのやはり魚礁は、一本釣りの魚礁、こっちは要するに釣り船の魚礁というふうに組合でよくまたそれを考えながら、そういったこれからの漁村全体がやはりそういうふうな活気のある漁村に持っていくような何かこういう施策を打ち出さなきゃいけない。それには、今企画がこの程度の企画じゃ非常に小さなそういった栽培漁業センターの企画だと思います。

今現在千葉県では富津にあります、それからあとは勝浦にもあります。それから、水産試験場が千倉にありますけれども、これは大体内房と外房からずっと放流をなされて、館山は非常にこの程度の少ない数のようでございますけれども、これについて大型の要するに栽培漁業センターを館山に持ってくるような、そういう誘致活動するようなお考えはございませんか、ちょっとその点お聞きします。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） ただいまのところそういうふうな計画はございませんが、御質問にありましたような勝浦、富津での栽培漁業センター、こういった関係——これは県営でございますので、館山の方へそういう計画、お話があれば十分に検討していきたい、こんなふうに考えます。

◎議長（福原 勤君） 植木 馨君。

◎6番（植木 馨君） じゃ、農業問題、漁業問題はこのくらいにしておきまして、特にこういった面はひとつこれからの大きな課題として取り上げていただきたいと思います。

次は工業問題でございますけれども、一応は具体的な答弁はございましたけれども、その中で私はでき得れば、ひとつ誘致する企業は早くからもう選択をしてやっていただきたいなという考えを持っているわけです。これはその企業が賃金関係でも身分関係でも、また福祉関係でもきちっとしたそういった体制が整っているような、労働組合があって整っているような、そういった雇用の安定された企業の誘致にひとつ目を向けていただきたい。

それから、できますものならば、今度の企業を誘致する方たちに — 土地の人は、ここから出る人は別ですけれども、向こうから入ってきた人の住居関係でございますけれども、これをひとつ民間委託をするような、そういうこれからのお考えを持っていただきたいと思いますけれども、その点いかがでございますでしょうか。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） 企業の誘致関係につきましては、これは県の企業庁、さらにはもちろん館山市の意見も入っていったって決まることになりますんですが、これらの現在企業の — 何が入るといことはまだ決定を見ておりませんし、これからの問題でございます。したがって、そういった関係での住居関係というのは、その企業がその中につくっていくか、または市がそれに対応していくかということになろうかと思いますが、十分その辺も内容を検討して進めていきたいと思っております。

◎議長（福原 勤君） 植木 馨君。

◎6番（植木 馨君） 次は一応市民行政参加の件でございますけれども、これを推し進めて市民運動を展開していくには何かそういったものをつくっていかなきゃいけない。これは例えば行政協力員だとか、そういう形だとか、何かそういう形をつくってやっていただきたいわけですが、その点いかがでございますでしょうか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） この行政参加、特に美観関係といいますか、都市をきれいにする、そういうことにつきまして、クリーン・アンド・ビューティフル運動、それぞれ市民一人一人が自分のまちをということで進めているわけでございます。毎年非常に市民の参加が余計なわけでございます。そういうことで、特別に現在 — 特にこれについての委員会ということはありませんけれども、先ほど答弁で申し上げましたけれども、町内会連合協議会、コミュニティ連絡協議会、商工会議所、観光協会、防犯協力会、こういう人たちが常にこの運動の中核でございます。そういう形で今後も市民運動として継続していきたいというふうに考えております。

◎議長（福原 勤君） 植木 馨君。

◎6番（植木 馨君） 市民の相互間のやはり心を育てる問題でもあるし、人づくりの問題でもあります。まちづくりにはこういうことが一番大切かと思えますので、ひとつこれからもそういった面を特に重視したこれからの行政参加によるまちを挙げての要するに自治意識の高揚を図っていただきたいと思えます。

じゃ、最後になりましたけれども、千倉線と神余の拡幅についてのことをひとつ御説明願います。よろしくお願いします。

◎議長（福原 勤君） ちょっと質問していただけますか。

◎6番（植木 馨君） じゃ、私の方からちょっと質問します。時間がないもので、急いでいましたんで……。

この館山大貫線の拡幅に係る雑排水路の件でございます。去る8月23日、一般県道館山大貫千倉線道路拡幅整備に関する県への陳情に際しまして、市長を初め市当局には格別の御尽力を賜りまして本当にありがとうございました。おかげさまで県当局も早期に整備促進に着手されているようでございます。

これにつきまして、南条地区より最近の住宅増加による生活雑排水路を設置してほしいという要望がございました。この要望に際しまして、現在の南条地区は農業用排水路に大型U字溝を敷設して、その上を歩道にするというような県との話し合いもついているようでございます。農業用排水路は、雑排水をここに流されると――農業用水として水を上げていない4月から7月まで約4カ月間があるわけで、それから8月から3月まで8カ月間は水が全然流れていけませんので、ここに雑排水を流されると、汚物が流れないでそこに要するに沈殿していく。それで、4月に田んぼが始まると水を上げますから、一斉にこの田んぼの受水槽から流れ込むという、そういうおそれがあるために、それを防止する意味から一応その大型U字溝の外側に雑排水路を設置してほしい。それ以外は、道路に沿って青柳の地区の排水路がございましてからそれに結んでいただきたいという、そういう要望がございまして。この県の整備計画に挿入していただくよう御尽力を賜りたいものでございます。



それから、あとは神余地区の市道7034号線の拡幅整備の今後の見通しでございますけれども、この件につきましては地元より、幅員が狭く、日常生活道路として自動車交換、生徒の通学、地元住民の歩行にも極めて危険な状態にあり、降雨のとき路肩が欠損、住民生活に長年支障を来してきた。そのために、地元住民の悲痛な叫びから、地元住民の地権者と協議した上でこのたび要望書が提出されました。市当局も地元の住民の日常生活の不便性を考えて、早速市の拡幅計画に入れて実施する方向に向けてくださいます、その今後の見通しについてお聞かせ願います。

この件につきまして、市当局の御配慮に対し感謝の意を表します。その陰で御協力くださいました島田議員に対して深く御礼申し上げます。ありがとうございました。

以上のことについてお願いします。この件については再質問はいたしません。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） 大きな第4の前段、館山大貫線でございますけれども、当該道路の整備につきましては、館山市及び関係区長さんを初め地元住民から県及び国に要望しておるところでございますけれども、県の深い御理解によりまして、事業実施に向け、現在地権者の立ち会いのもとに用地測量を行っておるところでございます。また、当県道の改良工事に先行し、南房総広域水道企業団が送水管の布設を行っておるところでございます。側溝につきましては、農業用水路等の配慮をしながら、関係者と十分協議の上、施行されるように県に要望しておるところでございます。

後段の神余地区のものについてでございますけれども、これについては平成4年度に調査測量を行い、地権者の協力を得まして年次的に整備を進めてまいるところでございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 以上で6番議員植木 馨君の質問を終わります。

以上で通告者による一般質問を終わります。

散 会 午後零時15分

◎議長（福原 勤君） 本日の会議はこれにて散会といたします。

次会は明18日午前10時開会とし、その議事は一般議案及び補正予算の審議といたします。

◎本日の会議に付した事件

1 行政一般通告質問